

街を行く

第97回 八尾 Yao

“男前な街”であってほしい

大阪出身の小生ですが、この街は初めて来た気がします。おそらくそれは小生の記憶が薄れているだけで、実際のところは幼少の頃、何度も訪れているはず。その証拠に、迷うことなくスムーズに八尾駅に降り立っているのではないですか。

新幹線を新大阪駅で下車、東京の山手線に当たる大動脈の環状線に大阪駅で乗り換え、お好み焼きや焼き肉で有名な鶴橋駅で今度は近鉄に乗り換えます。ちなみに近鉄は大阪から名古屋まで伸びる日本一の営業距離を誇る私鉄です。そして今回紹介する八尾は、鶴橋駅から20分程で到着する巨大ベッドタウンです。小生、八尾と聞くと、子供の頃が映画の全盛期だったためか、大映映画「悪名」で勝新太郎が演じる「八尾の朝吉」が頭に浮かんできます。喧嘩っ早い情には脆い、古き良き男前大阪人の気風そのものですよ（ああ昔が懐かしい）。

この街は歴史的にも古くて、飛鳥時代に大和朝廷の有力豪族であった物部氏が治めていた地でもあります。皆さん、あの物部氏ですよ。日本史を思い出してみてください。平安京の京都も平城京の奈良だってぶっ飛ぶ、法隆寺建立の聖徳太子の時代ですよ。八尾の周辺は奈良に近い歴史の街でもありますから、今回は歴史散策も兼ねてゆっくり歩いてみたいところです。ビジネスで国内外を頻繁に行き来していると、たまに悠久の歴史に触れておかねば日本人としてのアイデンティティを忘れてしまいますから。

今回も含めて、街を歩くときにいつも



駅前典型的な地方都市、古き良き八尾「らしさ」はどこに？

考えることがあります。それは、その街のらしさやアイデンティティとは？ この街で言うと「八尾らしさ」とは何かについてです。街の歴史からアプローチする部分もありますが、重要なのは未来、すなわち、その街が今後どんな役割を担っていくべきかではないでしょうか。もっとわかりやすく考えると、関西圏、大阪圏の中での八尾の立ち位置です。大都市周辺の街の役割がベッドタウンだったのは昭和の高度成長期での話。これから担うべき役割はおそらく「大都市とは一線を引いた文化」を大事にしていこうではないかと。

地方の街に総じて活気がないのは、もはや当たり前前の時代になりました。それどころか、日本自体の活気が弱まってきている。一部活気があるとしたら大都市の中心街だけでしょう。少子高齢化が今後もますます進んでいく訳で、以前より良くなることはないかもしれません。

衰退していく未来図なんて皆考えたくもないと思います。でも街づくりは、た

とえそれが厳しいものでも、現実を真正面から捉えて考えていくしかないですよ。その順序としては、まずまちの顔たる駅前から手を付けるべきだと思います。以前にも話しましたが、「金太郎飴」的な再開発はやめて、ユニークな街づくりが見てみたいところです。この街には、ぜひ古き良き大阪、いや河内の「男前」の良さを打ち出して欲しい。そんな願望を込めて、これから八尾を頻りに訪れ勉強し、この街の「らしさ」を考えていきたいと思っています。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。